

【瑞穂町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

児童・生徒に1人1台配備した学習用タブレット端末と学習支援ソフトやデジタル教材を効果的に活用し、一斉学習、個別学習、協働学習など様々な場面での情報収集や課題解決、意見の共有を通して情報活用能力の育成を図ります。

具体的には、学習用タブレット端末を日常的に活用し、AI型学習ドリル等を用いた児童・生徒1人1人の興味・関心や学習定着度に応じた課題に取り組む「個別最適な学び」や学習支援ソフト等を活用し、自分の考えや表現、学習記録をグループや学級全体で共有し、対話的に学び合う「協働的な学び」の充実を目指します。

また、他校の児童・生徒や外部の専門家等とオンラインでつながっての交流活動や連携授業を行うと共に、不登校、病氣療養、障がい、あるいは日本語指導を要する等により特別な支援が必要な児童・生徒がオンラインでつながり交流活動や連携授業を行えることを目指します。

2. GIGA 第1期の総括

瑞穂町教育委員会では、GIGA 第1期において、令和3年4月に1人1台学習用タブレット端末及び通信ネットワーク環境の整備を完了しました。また、各校に大型提示装置として大型モニターを整備しました。教育委員会では、機器の導入当初から、学びの実践のための取組として、教員が学習用タブレット端末を日常的に活用し、より効果的な授業を展開できるよう、ICT 機器活用についての知識・技能、ICT 機器を活用した授業実践について、教員向け研修会を継続的に実践してきました。

具体的には、各学校の取組事例の共有を目的として、各校から1名、ICT 教育を推進する教員を任命し、リーダーによる集合型研修や ICT 機器を活用した研究授業の公開を実施してきました。

また、不登校対策や特別支援教育にも ICT 機器を利活用してきました。具体的には、学習の見通しがもちにくい児童・生徒に画像や映像を学習用タブレット端末で示すことで、児童・生徒の理解を促したり、安心感をもたせたりすることができました。また、不登校等の児童・生徒には、オンラインでの授業を実施することで、どこでも子どもが安心して学べる「誰一人取り残さない」教育の実現の一つとして活用してきました。

一方で、端末の起動時間や操作性、通信ネットワークとの円滑な接続や故障の多さなどに課題が見られました。また、学習支援ソフトの未導入を背景に、学習用タブレット端末を活用した「協働的な学び」については、学校や教員ごとに差異が見られました。このことから、GIGA 第2期においては、堅牢性に優れ、故障率が低く操作性に優れた端末を選定し、十分な

予備端末を各校に配備します。また、通信ネットワークの整備については、無線アクセスポイントの増設、全町立小・中学校に、GIGA スクールで使用するインターネット接続に係る回線の通信速度の改善を図ってきたところですが、引き続きさらなる改善に努めていきます。さらに、「協働的な学び」の推進については、共有ツールの実践的な活用事例の研究を実施し、取組内容を各校で共有するとともに、学習支援ソフトを活用し、利活用を促進します。

3. 1人1台端末の利活用方策

児童・生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために、1人1台端末の環境整備に引き続き取り組むとともに、具体的に以下の内容に取り組んでいきます。

(1)「個別最適な学びの推進」

- AI 型学習ドリルの導入: 現在のデジタル学習ドリルをさらに進化させ、AI を活用した個別指導システムを導入します。AI は生徒一人ひとりの学習履歴や理解度を分析し、適切な課題を提供することで、より個別化された学習支援を実現します。
- データ分析の強化: 学習データの収集と分析を通じて、学習成果の可視化や課題の改善点を特定します。これにより、個別対応の質を向上させます。

(2)「協働的な学びの促進」

- 学習支援ソフトの導入と活用: OS の基本共有ソフトの他に、教育専用の学習支援ソフトを導入し、グループ活動やプロジェクト学習を促進します。
- グループプロジェクトの促進: 学習用タブレット端末を利用してグループでのプロジェクトを実施し、リアルタイムで共同作業を行う環境を整備します。共同編集機能を活用し、グループ内での意見交換や共同作業をサポートします。
- フィードバックの機会の提供: グループ活動の結果を全体で共有し、教師や仲間からのフィードバックを受けることで、協働のスキルを高めます。

(3)「探究的な学びの深化」

- 専門家との連携: オンラインで専門家と繋がり、講義や相談を通じて探究学習を支援する機会を提供します。

(4)「遠隔学習の強化」

- オンラインプログラムの充実: 遠隔地の児童・生徒や特別支援が必要な児童・生徒向けに、オンラインでの授業や交流活動を充実させます。学習用タブレット端末を活用して、リモートでのサポートや交流の機会を提供します。
- 技術サポート: ICT 支援員を配置し、遠隔学習を行うための技術サポート体制を整え、トラブルシューティングやサポートが迅速に行えるようにします。

(5)「プログラミング的思考の育成」

- プログラミングツールの活用: プログラミングツールを活用し、論理的思考を育むためのアクティビティを学習用タブレット端末上で実施します。

(6)「情報モラルの教育」

- 情報モラル教育のカリキュラム: 学習用タブレット端末を用いた情報モラル教育のコンテンツを提供し、ネットリテラシーやセキュリティについて学ぶプログラムを整備します。
- シミュレーションの実施: 情報モラルに関するシミュレーションやクイズを学習用タブレット端末で実施し、実際のリスクに対する理解を深めます。

(7)「デジタルならではの学びの推進」

- デジタル教材の充実: 学習用タブレット端末を用いて、音声や動画コンテンツを活用したデジタル教材を整備します。特に、外国語教育や科学実験の仮想体験など、多様な学びを提供します。